

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001042		
法人名	医療法人 北光会		
事業所名	グループホーム 朝里		
所在地	小樽市朝里2丁目 6番18号		
自己評価作成日	平成 26 年 3 月 7 日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172001042-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人経営のグループホームの為、医療連携が取りやすい点と近隣には、スーパー、飲食店があり利便性があるところです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営母体が同一地域内に位置する総合病院であり、ホームとの緊密な連携体制が構築されているため利用者の病状や緊急事態に対しても本人や家族ばかりでなく職員にとっても安心感があります。運行本数の多いバス停から至近距離にあり、JR駅からも徒歩圏でアクセスに便利な当ホームは、玄関ホール、居間兼食堂、浴室やトイレなどの共有スペースが広く、職員休憩室や多目的室等の管理スペースもあって建物内部全体にゆとりがあり、清掃と衛生管理も行き届いています。また、利用者の全居室には、クローゼットに加え、机として利用可能な棚や温湿度計も設置されて利用者の健康と暮らしやすさに配慮されています。職員は、利用者の個性や思いを尊重し、暖かい家庭的雰囲気づくりを目指すホームの理念を理解して明るく優しさのあるケアサービスの実践に努めており、親しみと和やかさを感じさせるホームとなっています。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経験・個性・思いを理念に掲げ、施設全体で、共有し日々実践に繋げています。	地域に根ざしながら利用者の自立支援に努める理念をホーム内に掲示し、パンフレットや重要事項説明書に明記しています。さらに、日常業務や会議を通して理念に基づいたケアサービスを確認し、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入させて頂き、廃品回収などに協力しております。避難訓練及び行事等、地域の方々に参加して頂き日常的に交流を図っています。	利用者の町内会及び運営法人の運動会への参加、小学校の体験学習受け入れ、清掃活動など町内会行事への協力、ボランティアによる訪問等と地域との交流が進んでいます。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の性格・思い・日常生活などを地域の方々との交流を通し、全体で支えていけるように努めていきます。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係者からの意見・助言を頂いたことは、職員に報告・相談・話しあいなどをしながら、改善に取り組んでおります。	会議は、民生委員や町内会会長、行政関係者等の参加メンバーで定期的開催しています。会議では、ホーム運営状況報告が主議題ですが、今後はテーマを設定しての進行方法も検討予定です。	会議議事録の内容を分かりやすく整理して、全家族へ送付すると共に家族への会議参加要請を今後も根気よく継続することが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後の入居者様の受け入れなど、市のほうに連絡・相談をさせて頂きながらアドバイスを頂き、改善できる所は、改善していきます。	管理者は、運営推進会議や市の会議等で行政担当者と接触の機会があり、介護保険課や保護課の担当者来訪の際にも懇談しています。また、行政窓口を訪問し、各種相談や情報交換を行って市との連携強化に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、外部研修や内部研修などを取り入れ学ぶ機会を持っています。入居者様の状況に合わせ、職員間で話しあいながら、入居者様が穏やかに過ごせる生活に取り組んでいます。	職員は、身体拘束防止に関する研修受講と内部勉強会によってその必要性を理解し、関連の資料を整備して全職員の共有としながら実務に反映させています。玄関の施錠は内側のボタンによる開閉方式ですが、これについては昨年の目標達成計画に取り上げて検討中です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は、もちろんですが見落としやすい心理的虐待については、日々のケアの中で職員の声の大きさ・声がけなどにも気をつけながら、防止の徹底に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修・外部研修に参加させて頂いたり、新聞や本などで学ぶ機会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学した上で、契約をさせて頂き、重要事項説明書の内容・契約書の内容などを御家族に説明し不明な点はないかなどを確認してから、署名・捺印して頂いています。不明な点など不安な事があれば、その都度、電話や来設時に説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、来設される御家族様との情報交換及び入居者様の要望を聞き、可能な限り取り入れ御家族の意見等その場で協議し、会議を行い職員に説明しています。	ホーム来訪の家族も多く、その都度、管理者や職員と話し合っており、担当職員が利用者の様子を伝える便りも毎月郵送しています。家族からの要望等は支援経過表に記録して内部で検討し、運営に反映させています。	家族の意見や要望は、遠慮等もあって言い出しにくい状況もありますので、家族が参加する焼肉パーティなどの行事を利用して家族に集まって頂き、率直な意見等を聞く機会を持つことを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務及び職員が感じたことや疑問に思ったことは、職員もしくは、管理者から上司に伝え個人面談など、職員を集め今後の方針などを説明をしています。	管理者は、日常業務の中で職員からの要望等を聞いていますが、毎月開催の会議やユニット会議でも諸事項について話し合いをしており、会議には運営法人の役員も参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部研修などを行い、提案や発言の出来るように、自信とやりがいにつながることを目指し目標の持てる職場作りを整備していきたいです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互訪問研修など勉強会に参加することでスキルアップを行う場を提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修に参加することで、他施設の良い所を持ち帰り、皆で話し合い、見直す機会にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話や行動の中で不安・不満など解消できる環境・関係作りを心がけ目指しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、御本人や御家族の思いやホームでできる事・できない事などを説明し要望に答えながら良い関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様の思い・御本人の思いと希望を理解した上で、穏やかに生活できるような支援を考えて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の身体的・心境などを含め出来ることを探しその人らしい日々が送れるような支援に努力しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様が、ホームにこられた際は、御本人の日常生活を伝えながら、御家族の様子も伺いコミュニケーションを取るように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を考慮し御家族様の意見も聞き、知人・友人が集まりやすいように配慮しています。	家族以外に知人が利用者に会いに来ることもあり、来訪者にはホームで気軽に過ごして頂き、後も重ねて訪問して下さるよう配慮しています。外食や馴染みの場所へ外出希望があった際には、希望先の状況に応じてできるだけ職員が希望に沿えるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事・日常の体操や食事の時間等を利用し入居者同士が苦痛なく楽しく共同生活していけるような支援を心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、御本人・御家族様の経過をフォローし、相談・支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思い・意見・要望をできる限り聞き入れ支援できるように努めています。	職員は、利用者の思いや意向を表情や行動、基本情報シートや家族からの情報を参考にして把握するようにしています。それでもなお、把握困難な時は本人の嫌がることを避けるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や御家族様に確認していますが、すべて把握できていないところがあり、入居後も不明な点については、御家族様に確認させて頂き、日々のケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御家族様と同居されていたり、近隣にいて普段からかかわりの多いひとは、現状把握できますが、入院生活などしていた方は、御家族様も状態を把握されていない場合があります。医療機関からも情報を頂くこともあります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当者を決め、知りえた情報などから必要なニーズを探し、アセスメントし職員間で話し、介護計画書を作成しています。	利用者の担当職員が毎月モニタリングを実施ながら「ケアプラン実施チェック表」に記録してカンファレンスで検討し、3ヵ月毎にプランの見直しをしています。プラン見直しが必要な際には家族や主治医と相談して最適のプランとなるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの実際を記録し、毎日の申し送りで職員間で、情報や問題点を話し合い、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的・心理的な変化にも気を付けながら、その都度、柔軟なサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と協議し、家庭菜園や草取り等無理なく楽しく作業できる様、支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人と御家族様の希望を大切にし必要時には、かかりつけ医に相談し、適切な医療が受けられるように支援しています。	運営母体の医療機関と緊密な連携を図りながら利用者の健康維持に努めており、月2回の訪問診療があります。利用者のかかりつけ医受診には、家族又は職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で異変に、気付いた時は、看護職員に伝え、適切な受診ができる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が御家族、病院と連絡を取り、必要に応じてホームで継続できるようリハビリなどの指導を受けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調が悪化した入居者様の御家族と話し合い、御家族様の希望する支援ができる範囲を説明し納得して頂けるように支援しています。	重度化の指針を作成し、家族の同意書を頂いています。利用者の重度化に際しては、家族や医療機関と相談して事後の対応を検討していますが看取りの事例は有りません。職員はターミナル研修を受け、ホームとしての対応方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生マニュアルを作成し、急変時、他職員の協力を仰げる体制作りをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、避難訓練・消火訓練を行ない、災害対策マニュアルに基づき、地域との協力体制も築いています。	消防署の指導を受けながら夜間想定を含めて年2回の避難訓練を実施し、地域住民も参加しています。職員は交代で救命救急訓練を受講しており、飲食品等の備蓄品も用意して災害に備えています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけに笑顔で言葉が返ってくるような会話作りを心がけています。	内部勉強会で利用者へのケアサービスを行う際の声かけ方法やスピーチロック（言葉の拘束）を理解し、誇りやプライバシーを損ねないよう十分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に過ごして頂き、普段から話しやすい関係を築き自分で決められるような話しかけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	混乱しつつあるペースや考えをその人らしく安全に暮らせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の個性・自分自身が納得できる身だしなみ・おしゃれを尊重しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様、1人1人が、食べやすいよう工夫しお膳の用意や後かたづけも手伝って頂いています。	食材会社の献立ですが、利用者の嗜好や病状を配慮しています。誕生日や季節に合わせた行事食、バーベキュー、外食等と食事に変化を持たせています。職員は利用者と食事を共にしていませんが、食事介助が必要な利用者が多いため止むを得ない状況にあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューを元に提供しその方に合わせた食べやすさの工夫し水分補給もチェック表に記入し一日の水分量を記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、一人一人の肩に合わせ介助し舌磨きや口腔内の観察などをし訪問歯科をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら対応するよう心掛けています。	職員は、排泄管理表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や様子を観察しながらトイレでの排泄誘導を支援しています。職員の支援努力によって利用者の一部には、おむつ使用からパット、紙パンツや布パンツなどへ変更した事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医師及び訪問看護師の指示により、便秘薬使用し食物にも留意しながら取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の決まりはなく介助必要な場合は、2名介助にて対応しリラックスできる場を作っています。	ゆったりした広さの浴室で平日の午後の時間帯に入浴を実施しており、職員と話をしながら入浴を楽しむ利用者もいます。利用者は週2回以上の入浴を基本として身体の清潔維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調や本人の訴えに応じて、生活のリズムが崩れない程度に休息時間の確保・気持ち良く寝れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服薬表が、明記されておりいつでも確認できるようになっています。また、主治医、看護婦の指示のもと、服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事や誕生会等の企画設け、日々の生活では、生活歴や力量を活かしたホーム内でのお手伝いや外出等し気分転換等の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期以外は、散歩や戸外への洗濯干し、畑へ採取しに取る機会があります。また、ご家族の協力を得ながら普段は行けないような所にも出掛けられる様な支援をしています。	利用者は、ホーム周辺を散歩して海の景観を楽しんだり、買い物に出かけており、町内会や運営母体の医療機関主催のお祭りなどにも参加しています。さらに、ホーム車両で花見などや個別の希望で外食にも出かけています。	年間行事は、誕生会や雛祭りなどのホーム内行事が主体で、外出行事がやや少ないようです。車椅子利用者が多く、外出行事は難しい状況ですが、利用者に変化ある生活を楽しんで頂くため、車椅子利用者も行きやすい外出先を検討し、実施することを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に、お金を所持したい方はおらず、入居者様がお金を管理する事は、難しい為、事務所にてお小遣いを預かり本人の希望に応じて使える支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月・請求書と一緒に近況報告を兼ねてねお手紙を書いている。ご家族様・御本人といつでも電話のやりとりができるようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るく、手摺は常に配置されていて、不安なく過ごせています。季節感を感じるようにレクリエーションなどを行い利用者様との交流に深めている。	ホームの建物は総じてゆとりのある構造で、居間兼食堂、廊下、入り口ホール、1ユニットに4カ所のトイレ等の共有スペースは広くゆったりとしており、清掃と整理整頓や衛生管理も行き届いています。居間兼食堂には、多数の鉢植え植物や手づくり作品が飾られて家庭的雰囲気があり、同スペース内の畳の部屋は種々の用途に利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にいるよりも、リビングで利用者様同士で過ごれることが多いので体操したり歌を唄ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使いなれた品物などを配置し生活感を大事にしている。	十分な広さと明るさのある全居室にはクローゼットと机兼用の棚、温湿度計が設置されています。利用者は馴染みの品等を自由に持ち込んで好きなように配置し、居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性のため、障害物を置かず、手摺を利用して歩行や運動をしているる家庭的な事を手伝って頂く。 (朝の掃除・食器ふきなど)		